

第66回 令和7年7月17日（木）

日本語のグラデーションについて。

漢字を使わず耳から聞いただけで「とる」という言葉からどのような行為を思い浮かべますか？

「棚からものをもって」ならば手や道具を使って物を引き寄せる様子。

「写真をもって」ならカメラを知っていればシャッターを押す様子。

「予約をもって」なら電話やインターネットをつかう様子。

「メモをもって」なら一生懸命何かに書き込む様子。

日本語はこのように同じ発音、同じ表記で意味が違ふことが多く、文章の前後から類推する知識や技術が必要になります。

外国につながりがあり、まだ日本語の理解が十分ではない人にとって、この言語は本当に難しいと思います。

まして今の若者が使う「やばい」「うざい」「きもい」などの言葉は前後の文章がつながっておらず、前後の会話から類推することが必要になります。

一部の若い人はこのことばのラリーだけで会話が成り立っています。いま使用した「うざい」は冗談なのか、本気なのか、感想なのか、愚痴なのか、批判なのか、反抗なのか。一つ間違えると争いになる警告なのか。

SNSで発信することばについて、発信者と受信者の意図がまったく違うこともあります。これが誤解を生み悲劇につながることもあります。

近年本を読む人が減っています。マンガや動画では日常と同じようなことばが使われます。しっかりした日本語を本から学ぶ機会がなくなっています。

みなさんはどちらかと言えばしっかりした日本語を使用するコミュニティーにいる時間が長いと思っています。「やばい」「うざい」「きもい」だけで成り立ってしまうコミュニティーもあります。

教員はそのようなコミュニティーで生活した経験が少ないので、「ことばの壁」にぶつかることがあります。生徒から「うざい」と言われたときに理解することができず、人によってはメンタルが壊れてしまうこともあります。

これは学校や国語の授業だけで何とかなる問題ではありません。テレビや動画の功罪もあります。正しい日本語で話す習慣を広め、正しい日本語でコミュニケーションをとる機会を増やす努力が必要だと思います。